

委員会活動 報告書

中国本部防災委員会

事業名	広島市牛田公民館 防災教育「我が家の災害と避難について みんなで考えよう！」
実施時期	2024年6月27日(木) 10:00~12:00
実施場所	広島市東区牛田公民館 第2研修室
参加者	広島市牛田公民館地域 高齢者17名 (講師) 広島市危機管理室 災害予防課: 脇田主査 (講師) 建設コンサルタンツ協会中国支部: 金原、技術士会: 青原
事業内容と感想	<p>本講座は、広島市東区牛田公民館において、高齢者17名を対象に、土砂災害、河川災害、高潮災害、地震災害について、「我が家の災害と避難について みんなで考えよう」をテーマに行ったものである。前半50分の座学の後、後半はワークショップとしてハザードマップにより自宅周辺の危険箇所と避難場所および避難経路を確認し、広島県版マイタイムラインの作成を行って避難のタイミングと準備および避難時間について考えた。</p> <p>広島市危機管理室、建設コンサルタンツ協会中国支部防災委員会、技術士会中国本部防災委員会の3者共同で行ったものである。</p> <p>1. 講座の内容</p> <p>1.1 土砂災害の概要</p> <p>土砂災害の概要と復旧状況、対策工の例をパワーポイントとビデオ画像で説明した。広島で近年発生した平成26年8.20広島豪雨災害、平成30年西日本豪雨災害については、実態と避難行動の事例を紹介した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 崖くずれの実態と被災者の体験談の解説。 ② 安佐南区梅林地区の土石流の発生状況と被災状況の説明。 ③ 警戒区域および特別警戒区域の説明と危険箇所との違いの説明。 ④ 降雨状況の説明。 ⑤ 平成30年西日本豪雨災害の概要 ⑥ 熊野町川角大原ハイツでの避難の体験談の紹介 <p>1.2 河川災害の概要</p> <p>牛田地区は太田川に近接した地域で、堤内地に低平な地域が広がっている。このため、太田川の氾濫による洪水と内水面氾濫による浸水に注意が必要であることを以下の事例で説明した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 平成30年西日本豪雨災害: 広島市内瀬野川と三篠川の氾濫による道路と橋と鉄道の被害 ② 平成30年西日本豪雨災害 岡山県真備町小田川の氾濫 ③ 平成27年茨城県常総市鬼怒川の氾濫 <p>1.3 高潮災害の概要</p> <p>高潮災害が発生する原理と地形的特徴の説明と、平成16年台風16号・18号の広島県での被災状況の紹介を行った。</p> <p>1.4 地震災害の概要</p> <p>東日本大震災と阪神淡路大震災と熊本地震および能登半島地震の被災写真とビデオ画像を使って、海で起こる地震と直下型地震の被害の違いと心がまえについて説明した。</p> <p>牛田地区では、直下型地震として安芸灘地震、五日市断層、己斐断層による地震が発生する恐れがあり、最大震度5強の地震が予想されている。地震はいつ発生するかわからないので、地震が発生した時の身の守り方と室内の安全点検(家具の固定や配置)について説明した。また、震度5強の揺れのビデオ画像を紹介して実感してもらった。</p> <p>1.5 警戒避難についての説明</p> <p>土砂災害は雨の降り方と密接な関係があり、降雨量と土砂災害発生との関係を説明した。</p> <p>避難情報は雨の降り方によって発令される。避難情報がでた場合には、速やかに対応する必要があることを説明した。自宅近くの避難場所、安全な避難経路を再確認してもらい、避難における心構えを説明した。</p> <p>1.6 広島市からのお知らせ(広島市危機管理室 災害予防課: 脇田主査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来るべき災害に立ち向かうために 「自助」「共助」「公助」がそれぞれの役割に応じて有効に機能することで、災害による被害の軽減を図ることができる。 ・災害まちづくり事業について <ol style="list-style-type: none"> ① <u>わが町防災マップの活用</u>: 地域の自主防災組織が独自の情報を取り込んだ防災マップを作成している。危険箇所をより身近に「災害を我がこと」と捉えて利用していただきたい。 ② <u>地域防災リーダーの養成</u>: 防災リーダー養成のため、防災士養成講座を実施している。 ③ <u>地域における防災訓練の支援</u>: 助言と指導および資機材の購入費の補助を行っている。 ④ <u>防災アプリ「避難所へGo!</u>」: 災害発生時には便利な機能が搭載されている。多くの方に利用していただきたい。

事業内容と感想

2. マイタイムラインの作成

A0版で作成した土砂災害・洪水浸水ハザードマップとA3版のマイタイムライン用紙を用いてグループごとに実習を行った。

- ① 自宅を地図にプロットし、自宅周辺の危険箇所を知る。
- ② 自宅に近い避難所を選び、自宅から避難所までの道のりを記入する。
- ③ 避難する間に危険な場所がないか考える。
- ④ 避難のタイミングを考える。1～5の警戒レベルがあり高齢者の避難レベルを知る。
- ⑤ 避難のための準備用品、準備時間を把握する。
- ⑥ 避難に必要な時間を考える。

3. 発表

- ・自宅は洪水浸水範囲にあるがマンションに住んでいるために、避難は必要がないと考えるが、災害直後は外出ができないので、食料・水・薬・日用品の備蓄を行っている。
- ・土石流の警戒範囲に自宅がある。大型犬のペットがいること、道が坂であり以前も道に土砂や水が溢れたことがあり、大変不安である。どのようなタイミングで避難をすればよいか教えてもらいたい。
- ・避難所の小学校は何キロも離れた洪水浸水区域にあり、避難はできない。以前も近くの谷から道を通して土砂が出たことがあり、近くに避難施設が必要だと感じている。

4. 講座を受けた感想

- ・講師の方の説明も大変参考になりました。何度も講座を行ってほしい。各グループにサポートして頂ける方が回ってくださったのはとても助かりました。すぐ質問できワークショップに役立ちました。
- ・あちこちで災害が起こっているので人ごとではないと改めて勉強させて頂いて良かったです。ありがとうございました。
- ・いつでも身近に災害が起きることがよくわかった。忘れないようにしたい。
- ・もう少し講座の回数多くしてほしい。
- ・防災についてよくわかった。いろいろ考えてみたいと思います。

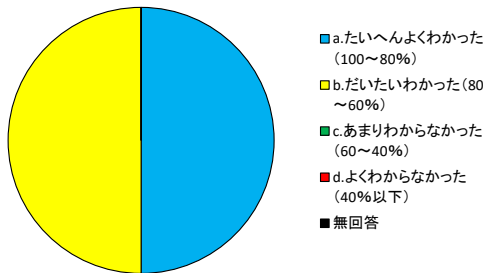
6. 講座を行った感想

牛田地区は急傾斜地、土石流危険渓流といった土砂災害危険箇所と太田川に近接して洪水氾濫地域が広がっており、今回参加された方のほとんどの自宅が危険箇所に含まれていた。

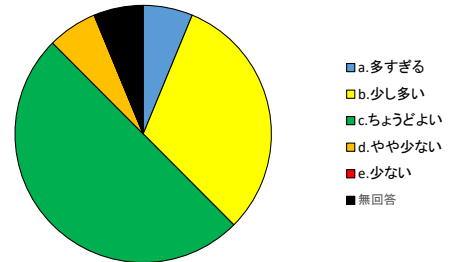
周辺の避難場所の状況や避難路の特徴についてよく理解されていたが、地域の特徴として避難場所が斜面を降りたところにあることが多く、さらに広島市指定避難施設が遠く、降雨時には避難しづらい方もあった。

その中で、約半数の方がマンションに住んでおられ、自宅での避難を考えており、その準備をされている方もあった。洪水や土砂災害では自宅避難が可能であるが、大きな地震時にはマンションは水や電気がとまり公共施設への避難も必要となることを説明した。

Q1: 講座の内容はどのくらい理解できましたか。



Q2: 講座の内容の量はどのようでしたか。



講習会全景



ワークショップ



